

高める

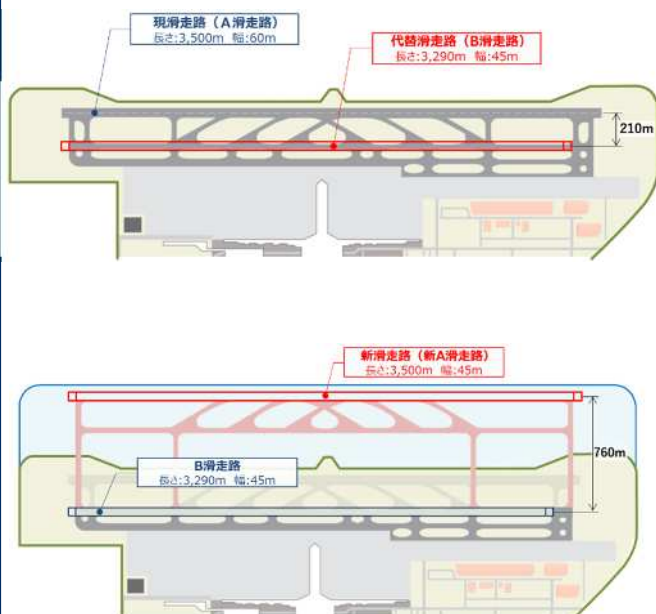
中部国際空港の第二滑走路の整備を 始めとする機能強化の早期実現！

中部国際空港

- 地域において『中部国際空港の将来構想』をとりまとめ！
- 現空港用地と新たに造成される土地を最大限活用して、2段階の整備で2本の滑走路を配置し、滑走路処理容量を現在の1.5倍に！
- 第1段階は2027年度供用開始を目指す！

整備効果

- 1 将来の航空需要への対応
- 2 完全24時間運用の実現
(滑走路メンテナンス時間の確保)
- 3 滑走路の大規模補修への対応
- 4 不測の事態による滑走路閉鎖リスクの回避
- 5 災害時における他空港のバックアップ機能の確保
- 6 魅力にあふれ発展する地域への対応



第1段階〔暫定形〕

- 深夜早朝時間帯における航空機の運航を継続しながら現滑走路 (A滑走路) の大規模補修を速やかに実施するため、現空港用地内の誘導路を転用して、A滑走路と210mの中心線間隔を確保した代替滑走路 (B滑走路) を整備し、当分の間、A滑走路との2本で運用する。
- 2027年度を目途にB滑走路を供用開始するとともに、A滑走路の大規模補修に着手することを目指す。

第2段階〔将来形〕

- 将来の航空需要を踏まえ、また、漁業者を始めとする関係者との十分な調整を前提として、新たな埋立地にB滑走路と760mの中心線間隔を確保した新滑走路 (新A滑走路) を整備する。
- 新A滑走路の整備に合わせて現A滑走路は廃止し、新A滑走路とB滑走路の2本で運用する。